

川からの都市再生に関する研究 — 典型的な都市河川・渋谷川と古川を例に —

日本大学 学生会員 ○岡本 翔悟

日本大学 正会員 吉川 勝秀

1. はじめに

1) 研究背景

戦後、日本の都市河川は急激な都市化、治水問題への対策から、多くがコンクリートで護岸がなされ、深く掘り込まれた。その結果、現在の都市河川は以下のような問題を抱えている。

- 人・街と分断され、空間的なゆとりがなくなった
- 水辺を歩くこと・水辺へアクセスすることが困難になった

今回研究対象にあげる渋谷川や古川は、戦後の都市化が生んだ典型的な都市河川と考えられる（写真-1 参照）。



写真-1 現在の渋谷川（左）と古川（右）

2) 研究目的

本来、都市河川は都市域において貴重な連続した広い公共空間であり、周辺住民が憩いの空間として利用でき、人・街とつながりを持っていることが望ましい。

本研究では、渋谷川・古川を研究対象とし、人が川を利用できる河川空間および周辺空間の整備による都市再生についての研究を行った。

2. 川沿い・川の中の移動

河川空間の改善を図るために、川沿いおよび川の中を移動することが必要と考え、現地調査・河川管理施設等構造令により、親水施設と川の中の移動について可能性があるか調査し、以下のことがわかった。

（現地調査）

- 渋谷川・古川にも川沿いにいくつかの公園やテラスなどが存在している。（図-2 参照）
- 川際まで建物が迫り、川に近づけない状況にある。

- 古川では、建物だけでなく上空や真横に高速道路が走っており川に暗いイメージを与えている。



図-1 現地調査図

（河川管理施設等構造令）

河川管理施設等構造令が定めている河川の管理用通路は、主に洪水時の河川の監視等、治水を目的として規定されている。しかし、今後は市民の日常利用が可能な通路の整理が考えられるべきである。

以上の現状と構造令の規定から現在は歩行空間がなくなっていないが、川沿いの公園等の親水施設と河川の管理用通路等を利用した川の中の歩行空間をつなげることで、渋谷川・古川も人が川を利用できる河川として再生できる可能性が生まれることがわかった。写真-2はそのような歩行空間のイメージ写真である。



写真-2 河川整備された渋谷川（左）と古川（右）

（イメージ写真）

3. 古川を覆う高速道路撤去

将来的に川沿い・川の中の歩行空間整備が実現された後、河川空間の改善において重要な点となってくるのが、古川の高速道路の撤去あるいは地下化による空

キーワード 渋谷川 古川 都市再生 河川空間整備 高速道路

連絡先 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 日本大学理工学部 水環境研究室 TEL/FAX047-469-5228

間の開放である。そこで、現在議論がなされている日本橋川にかかる高速道路の撤去に加えて、古川も高速道路の撤去または地下化の可能性はあるか、河川と道路の歴史的変遷および首都高速道路計画等に基づいて調査した。

(河川と道路の歴史的変遷)

明治期、東京の中心では河岸が数多く存在し、河川を利用した舟運が盛んであった。道路もまた河川に沿うように整備されており、河岸へのアクセスは良好な状態が整っていた。しかし戦後、近代化を目指したことにより道路網が張り巡らされ、高速道路建設も進み、渋谷川は一部地下化され、日本橋川や古川は高速道路に覆われ、楓川は河川が道路に変わった。(図-3参照)。



図-3 現在の河川・道路の関係図

(首都高速道路計画)

古川や現在議論がなされている日本橋川の上空を覆っている高速道路は、東京内環状道路の内側にある都心環状道路である。以下に示した都心環状道路の現状から都心環状道路は主に、外側の交通にアクセスするための中継道路として利用されていることがわかる。

- 利用台数は約47万台。
- 利用台数の6割の約29万台が環状道路内に起点と終点を持たず、放射状に通過するだけである。



図-4 首都高速道路網図

また、東京における道路計画では以下の計画が進んでいる。

- 平成25年に東京内環状道路の全線が開通する予定（図-4参照）。
- 一般道路の一部拡幅。(例: 明治通り・環八通り等)

これらの東京内環状道路の完成後の開通効果により、内側の通過車両台数は大幅に緩和され、さらに東京内環状道路の内側の一般道路の拡幅が実現すれば日本橋川にかかる高速道路とともに、古川にかかる高速道路も撤去または地下化できる可能性が出てくると考えられ、古川の景観および空間は良好なものとして再生されることが考えられる。

4. 渋谷川暗渠部分と渋谷駅周辺の再生

もう一つ将来的な河川空間整備による都市の再生について渋谷川が暗渠化されている渋谷駅周辺の空間を取り上げた。現在、渋谷駅の周辺の空間整備では以下の計画が実行されている。

- 都営地下鉄13号線の開通。
- 東急東横線の地下化（渋谷駅～代官山駅）。
- 地下鉄と渋谷駅をつなぐ地下通路の整備。

これらの計画と関連して、渋谷駅周辺の再生として暗渠化されている渋谷川を二層河川の上のせせらぎとして復活させることあるいは最終的に開渠することができれば、渋谷川は水の街として人・街とのつながりを取り戻し、都市再生の第一歩を踏み出すことができるであろう。



図-5 渋谷駅周辺図

5. おわりに

本研究では、渋谷川・古川からの都市再生を河川空間の移動の実現、また道路計画などから考え、その可能性について考察し、研究結果を示した。今後は各課題の実現についてより深い研究を進めていく。